略 歴

昭和11年(1936)12月東京都生まれ。
慶應大学、エール大学、コロンビア大学に学ぶ。
昭和42年『ブリタニカ国際大百科事典』初代編集長を経て、評論を執筆。シカゴ大学、ペンシルバニア大学などより安全保障問題の講師として招かれるなど、海外での講演活動も多数。

昭和52年	一般社団法人 日本ペンクラブ 理事
昭和52年	福田赳夫首相の首相特別顧問として訪米。 福田、大平、鈴木内閣で園田外相の顧問として訪米。
昭和57年	中曽根康弘首相の首相特別顧問として訪米。
昭和58年	社団法人 日本文化協会 会長
昭和60年	財団法人 日本船舶振興会 理事
昭和63年	松下政経塾 評議員、平成17年 相談役
平成 4年	拓殖大学客員教授
平成14年	日印親善協会 理事長
平成17年	公益財団法人 石橋財団 理事、平成22年 評議員
平成18年	公益財団法人 日本国防協会 顧問
平成22年	東京国際大学 特任教授
平成28年	公益社団法人 隊友会 理事

他 多数の役職を歴任

映画『プライド・運命の瞬間(とき)』製作委員会代表
映画『ムルデカ・17805』製作委員会代表

著 書

「自發自奮 私の半成記」(高木書房)
「迷走する韓国をどうしたら救えるか」(勉誠出版)
「昭和天皇の苦悩 終戦の決断」
「昭和天皇の苦闘 巡幸と新憲法」(勉誠出版)
「加瀬英明著作選集Ⅰ」「加瀬英明著作選集Ⅱ」(勉誠出版)
「岸信介 最後の回想」(勉誠出版)
「大東亜戦争で日本はいかに世界を変えたか」(KKベストセラーズ)
「昭和天皇の戦い」(勉誠出版)
「アメリカはいつまで超大国でいられるか」(祥伝社新書)
「日本と台湾」(祥伝社新書)
「ジョン・レノンはなぜ神道に惹かれたのか」(祥伝社新書)
「徳の国富論」(自由社)
「イギリス 衰亡しない伝統国家」(講談社)
など著書多数。

MEMORIAL MOVIE

デジタルしおりとしても ご覧いただけます

お手持ちのスマートフォンやタブレットにてしおりのデジタルデータをご覧いただけます。
下記のQRコードをスマートフォンで読み込んでください。

お伝えしたい方へシェアすることもできます

本日は何かと混雑に取り紛れ不行届の段
あしからずご容赦下さいます様御願い申し上げます

加瀬 英明先生を 偲ぶ会

とき:令和5年2月22日 11時より
会場:ホテルニューオータニ 鳳凰の間

加瀬 英明 先生

令和4年11月15日 永眠（85歳）

「お力添えくださいました皆様へ
謹んで御礼申し上げます」

このたびはご多用の中、亡夫 加瀬 英明 のためにお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。
夫は令和4年11月15日、85歳にて生涯をとじ、葬儀は過日近親者のみにて相済ませました。
このたび偲ぶ会を執り行う運びとなり、この世を去った夫が今でも大勢の方から愛され、慕われていることを改めて知り、嬉しく感じています。

夫は日本という国を心から愛し、より良くするためにはどうすべきか考えながら行動してきました。大事なことだと感じたら どんな仕事や役であろうと引き受けますが、自分が儲けようとは思わない無欲な人でした。歳をかさねても意欲に満ちあふれ、何かしようと決めたらすぐに動こうとするので、無理をしていないだろうかと見ていて心配だったものです。年齢や性別、立場や国籍などを問わずに付き合い、話をして互いの理解を深める中で、相手を否定したり傷つけたりするような物言いはしません。私に対しても「いいと思うよ」「これはどうかな、と思うんだけど」と、言葉を選んで伝えてくれました。これは私に限った話ではなく、皆様に対しても同じだったと思います。そうした夫だからこそ、皆様とのご縁が長く続いていたのでしょう。
いつどのような場所でも自分の意見をハッキリと述べていた夫は、優しくてユーモアがあり、ニコッと笑った笑顔が素敵な人でした。在りし日の面影や言葉は今も皆様の心の中で生きています。時折で構いませんので思い出して頂けたら、夫も喜ぶと思います。

偲ぶ会をつつがなく執り行うことができましたのは皆様のお力添えのおかげと、ありがたく厚く御礼申し上げます。
皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、略儀ながら書中をもちましてご挨拶に代えさせて頂きます。

令和5年2月22日

喪主 加瀬 なみ